

立川市建設業四団体連合会

計画停電で投光支援

東日本大震災で

立川市内の建設業者、設備業者、造園業者で組織する立川市建設業四団体連合会（内野良一会長）は、東日本大震災に伴う計画停電に際して、市民の安全を確保するため、

JR立川駅周りで停電時の投光支援を行った。災害時の応急復旧とは異なる、業界の特性、機動力を生かした社会貢献活動を紹介する。

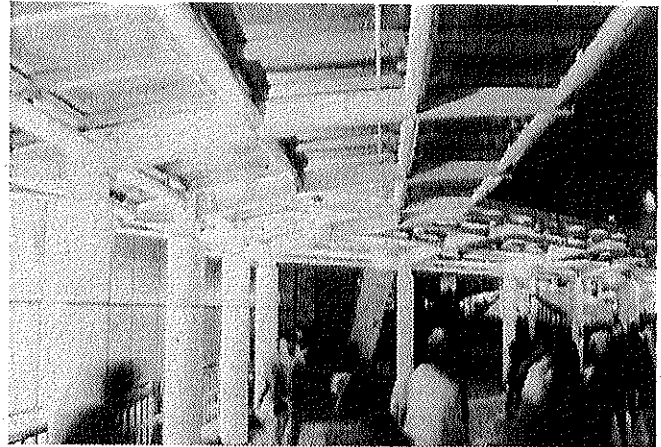
りの消えた立川駅周辺で帰宅を急ぐ市民の足元を照らした。

さらに19日には、活動が長期に及ぶことを想定して投光方法などを再検討。デッキ部へのスズラン灯設置を市と協議し、機材調達に当たった。

連合会では、3月15日を開いて即座に駅南口・北口の交差点、デッキ部への投光器の配置図を作成。17日には約25人が出動し、動力発電による投光器やパワーライト約40基を配置図に基づいて設置。実際に停電になった北口地域で午後6時30分

から9時30分まで、明かで反省点もあった」と振り返

JR立川駅北口デッキでの投光支援の様子



ぶ場合も予想し、「スズラン灯」のようなアナログ的な機材を用意しておくことも重要」と指摘する。

連合会では今回の活動を生かして会員相互の連携をさらに強化していく。投光支援活動が市からの委託業務として認められた場合には、その請負代金は義援金として被災地に送ることを検討している。

また、活動の様子はほかの団体なども参考にできるよう、記録映像としてまとめ、インターネット

の動画投稿サイトで公開している。



業界の機動力生かし市民の足元照らす